

安心をすべての人に届けたい

きたもと

well-being 通信

well-being (ウェルビーイング) : 幸福、健康で満たされた状態

公式ホームページ
http://sakuraisuguru.jp/



北本市議会議員
桜井すぐる



2025年
8月号

令和6年度のふるさと納税寄附額は約13.6億円
災害ボランティア参加報告、議会運営委員会行政視察報告

令和6年度ふるさと納税寄附額は県内2位
1位は草加市の17億757万円

令和7年7月31日に令和6年度ふるさと納税に関する現況調査結果が総務省より発表されました。

令和6年度の北本市のふるさと納税額は前年度を13.5%上回る13億5,767万6千円となり、県内市町村では草加市に次ぐ第2位となりました。寄附件数は前年度を28.8%上回る11,318件でした。

返礼品別の寄附額では、銀座英國屋のスーツ仕立券、グリコ商品詰め合わせ、むさし製菓のおせんべい・おかきなどが上位を占めました。

北本市のふるさと納税寄附額・寄附件数の推移

年度	寄附受入額	寄附件数
H29	2,373万5千円	339件
H30	1億6,028万9千円	1,477件
R01	2億4,784万9千円	2,001件
R02	6億8万8千円	3,908件
R03	9億745万1千円	6,128件
R04	11億1,018万2千円	7,295件
R05	11億9,588万9千円	8,790件
R06	13億5,767万6千円	11,318件

いただいたふるさと納税の活用方法は？
6年度はこども医療費支給事業などに活用

いただいたふるさと納税は、ふるさと応援基金に積み立てています。令和5年度末の基金残高は約12億2千万円で、令和6年度中に約4億9千万円を活用しました。このうち、約2億円はこども医療費支給事業など『子どもの成長を支えるまちづくりに関する事業』に充当しています。ふるさと応援基金の活用状況は市のホームページ(右のQRコード)に詳しく報告されていますので、ぜひご覧ください。



白糠町は1人当たり約300万円の寄附受入
自治体格差が顕著で早急な是正が必要

本市では約13億6千万円の寄附を受け入れましたが、返礼品の購入やポータルサイトへの支払いなど、約6億2千万円を経費として支出しました。経費を差し引いた残りは約7億4千万円となります。経費の割合は、寄附額の5割以内と定められています。寄附額が多い自治体ほど、広告などの経費を多く使えることになり、多くの寄附を獲得することが可能となります。

また、令和6年中に北本市民が他の自治体にふるさと納税寄附を行ったことにより**本市が失った税金**(令和7年度の個人市民税寄附金控除額)は、前年度を16.2%上回る2億393万6千円でした。横浜市では約343億円の税金を失った一方、人口約7千人の北海道白糠町では約212億円の寄附を受け入れています。白糠町の税金は約10億円で、税金の20倍超の寄附を受けているだけでなく、約36億円もの地方交付税も受け取っています(R5決算)。

このように、ふるさと納税による自治体間格差が顕著になっており、地方税財政制度を歪めていることは明らかです。ふるさと納税制度の早急な是正が必要です。

監査委員による令和6年度決算審査が終了
市議会では9月定例会において審査

監査委員として初めての決算審査が終了しました。令和6年度決算について、7月中旬に計8日かけて全ての課室長から説明を受け、質疑を行い、8月7日にその結果と意見を市長に報告しました。議会では9月定例会において決算の審査を行います。監査委員は予算決算常任委員会における審査には加わりません。

本市の財政状況は引き続き健全な状態が保たれていますが、詳しくは9月定例会終了後に改めて通信やホームページで説明させていただきます。

北本復幸ボラチーム はぴとま 結成！ 災害ボランティア活動参加報告

◆7月12日 『彩の国会議』参加

7月12日、県危機管理防災センターにおいて彩の国会議・集まろう！埼玉のチカラ・埼玉県災害ボランティア団体エントリー大作戦！が開催されました。私は北本復幸ボラチームはぴとまの一員として参加しました。はぴとまは昨年結成された北本市民中心の災害ボランティア団体です。イベントでの啓発活動や能登半島地震の災害ボランティア活動等を行っています。

災害発生時、行政ができることには限界があります。県と各市町村の連携、県社協と市町村社協の連携の他に、民間のボランティア団体による連携が極めて重要になります。行政に対策を求めるだけでなく、市民レベルでできる準備をしっかりとしていきたいと思います。

彩の国会議とは…

埼玉県及び県社会福祉協議会等と連携し、首都圏災害をはじめとした災害危機に際し、県内の災害支援団体ボランティアの活動を調整するとともに、防災・減災のための技能の向上、団体間の協力体制の確立、研修等の活動に努めることを目的に発足したネットワーク(2018年発足)



◆8月2～4日 能登半島地震ボランティア参加

8月2日から4日までの日程で通算5回目の能登半島地震災害ボランティアに行ってきました。今回は穴水町を拠点に活動しているNPO法人レスキューストックヤード(RSY)の活動にはぴとまのメンバー4人で参加してきました。RSYは発災直後の昨年1月3日に穴水町に入り、現在は町の陸上競技場に建設された町内最大の仮設団地・由比ヶ丘団地において、孤立を防ぎ、生きる力を支えるみんなの居場所であり、地域住民とボランティアの交流拠点である『ボラまち亭』を運営しています。私たちはボラまち亭でのカフェの運営をお手伝いしました。

今回の能登訪問では以前と比べ被災住宅の解体作業や新たな住宅の建設が進み、着実に復興が進んでいることがうかがえました。一方で、訪問後の8月6日の大雨により穴水町でも一部の仮設団地が浸水してしまいました。昨年は9月に水害が発生し大きな被害が出ているだけに、とても心配しています。今後も、引き続き状況を見ながら、災害ボランティア活動に参加したいと思います。

議会運営委員会 行政視察報告(八王子市議会)

8月5日、議会運営委員会の行政視察で八王子市議会を訪問し、所管事務調査やタブレットの活用等について伺ってまいりました。

八王子市議会では、常任委員会ごとにテーマを決め、調査や視察を行い、政策提言を行っています(期間は2年)。北本市議会でも同様の活動を行っていますが、報告書や提言を見るとその違いは歴然としており、非常に充実した内容で質の高いものでした。

今回の視察を活かして、北本市議会のテーマ活動もより充実したものとなるよう、改善を図ってまいります。



発行者：桜井すぐる後援会(代表：桜井 卓)
住 所：〒364-0034 北本市高尾1-166-6
電 話：090-9389-3572(桜井携帯)

52歳。早稲田大学卒。元埼玉県職員。議員専業。
令和元年5月～北本市議会議員(現在2期目)
北本市監査委員、建設経済常任委員会所属、
埼玉中部環境保全組合議員

SNSでも情報を発信しています！



SAKURAI SUGURU KITAMOTO



Xアカウント
@sakuraikitamoto

